

ヤドカリの行動を探る!

松家 英彦

7月24日土曜日、表題のテーマで千葉大学海洋バイオシステム研究センターの菊池先生による自由研究ツアーがあった。

参加者は10家族20名の皆さん。午前中は真夏の太陽の下、長崎海岸でカニ、ヒトデ、小魚など観察をしながらヤドカリを探し、大小20匹余りを採取した。

午後から銚子市地域交流センターの科学実験室で菊池先生からヤドカリについて説明があった。ヤドカリは



長崎海岸でのヤドカリ探し

入ったヤドカリとやり取りをした後に、殻からヤドカリが出て、裸のヤドカリが殻の中に収まった。このようにヤドカリでも好き嫌いがあることや共に生存するための行動を観察できたようだ。観察したことを記録し、家に帰ってから考察や感想などを加えて自由研究のレ

イソヨコバサミやケアシホンヤドカリなどで、背負っている貝はクボガイやレイシガイなど。いよいよヤドカリの行動観察。万力を使ってヤドカリの殻を割って裸のヤドカリを取り出す。体重を測って大きさの目安とし、別途用意した空の巻貝の貝殻をヤドカリに与えた。でも、ヤドカリは全く関心がなさそう。そこで、少し小さめの貝殻を入れるとそそくさと最初の貝殻に収まった。

次に殻に入ったヤドカリに裸のヤドカリを入れてるとそのヤドカリが殻に入ったヤドカリとやり取りをした後に、殻からヤドカリが出て、裸のヤドカリが殻の中に収まった。このようにヤドカリでも好き嫌いがあることや共に生存するための行動を観察できたようだ。観察したことを記録し、家に帰ってから考察や感想などを加えて自由研究のレ

ポートの完成となる。大変充実した楽しいツアーとなった。

田んぼを守れ! ジャンボタニシ調査隊! 加瀬 久美子

真夏の太陽が容赦なく照り付ける7月25日曜日、桜井町公園に親子17名、事務局、千葉科学大生、市民の会のスタッフが集まりました。講師は、千葉県生物多様性センターの大木淳一先生です。

先生からの注意事項を聞いた後、四日市場の田んぼの畦道を散策しました。用水路にはヌマガエルやハゼの仲間の稚魚、こげ茶色したジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)がいました。岩本専門員が、スコップで田んぼの土を掘り起こしたら、ジャンボタニシがいました。不思議な事に、四日市場の田んぼは見渡す限りオオフサモ(外来種)で覆われていました。これは昨年迄は水田だったが、ジャ

ンボタニシの繁殖がひどくて、今年からは水田を放棄してしまつたとの事でした。

昼食後は、八木町の田んぼに移動し、ここは青々とした木々に囲まれ、野鳥が飛び交う場所でした。田んぼは、まるでグリーンの絨毯を敷き詰めたかのような見事な稲の中、畦道を歩いていくと、心地よい風が頬を撫でてくれました。ここではいくら探しても、ジャンボタニシは見つかりませんでした。

この後、地域交流センターの実験室に移り、先生から今回の自由研究のテーマである「農業に役立つ自由研究を「農業に役立つ自由研究を身回りで見つけてみる」をテーマに、ジャンボタニシの生態について、先生から話を聞きました。ジャンボタニシは、水田の畦道に生息し、稲の根を食害するだけでなく、稲の生育を妨げる原因の一つです。先生からは、ジャンボタニシの生態について、先生から話を聞きました。

この後、地域交流センターの実験室に移り、先生から今回の自由研究のテーマである「農業に役立つ自由研究を「農業に役立つ自由研究を身回りで見つけてみる」をテーマに、ジャンボタニシの生態について、先生から話を聞きました。ジャンボタニシは、水田の畦道に生息し、稲の根を食害するだけでなく、稲の生育を妨げる原因の一つです。先生からは、ジャンボタニシの生態について、先生から話を聞きました。

苗に、真っ赤なジャンボタニシの卵がピツシリ付着している様子の説明がありました。

そもそもこの貝は、昭和55年頃食用として外国から輸入されましたが、美味しくなかつたので、養殖業者によって野外へ放たれ野生化した。温暖化で生育エリアの北上が懸念される中、環境省および農水省が「重点対策外来種」に指定されました。

最後に先生から「ジャンボタニシを持ち帰る方は、放置しないで死ぬまで飼って下さい」との注意がありました。

最後に先生から「ジャンボタニシを持ち帰る方は、放置しないで死ぬまで飼って下さい」との注意がありました。

行事予定

☆9月19日(日)の屏風ヶ浦の海岸清掃は中止です。

☆10月13日(水)から学校支援ジオパーク学習

銚子市内の小学校の6年生を対象に、銚子ジオパークの地質的価値や自然と人間との関わりに気づく機会を提供し、ふるさと銚子への愛情を深めることを目的に屏風ヶ浦エリアの見学学習を行います。

☆10月18日(月) 千葉県立銚子高校防災シオツアール 銚子の「防災の学び」学習活動を毎年1年生約160名で実施し、市民の会が防災シオツアのガイドをします。 ☆11月27日(土)から銚子ジオパーク講座 銚子の「大地」「自然」「人の暮らし」について専門の先生から興味深いお話が伺えます。コロナで日程等の変更が予想されますので、詳細は、銚子ジオパーク市民の会ホームページをご覧ください。



卵とジャンボタニシ

提供: 大木淳一氏(千葉県生物多様性センター)